

# 自転車運転者講習制度をご存知ですか？

改正道路交通法の施行(6月1日)により、14歳以上の自転車の運転に関して、信号無視などの危険なルール違反を繰り返すと、公安委員会から自転車運転者講習の受講を命ぜられる制度です。



## 講習の対象となる危険行為の例

- 通行区分違反  
車道の右側通行や、右側に設置された路側帯を通行するなどの行為
- 遮断踏切立入り
- 制動装置(ブレーキ)不良自転車の運転  
ブレーキ装置がなかったり、ブレーキの性能が不良な自転車で走行する行為
- 安全運転義務違反  
傘差しや、ながらスマホ(携帯電話)の操作、イヤホンを聴きながらの運転での事故等
- 酒酔い運転  
※上記5項目を含む、14項目が危険行為として定められました。詳しくは大阪府警察ホームページをご覧ください。

**自転車運転者講習を受講**  
 ■講習時間:3時間  
 ■手数料:5,700円

**受講に従わない場合  
5万円以下の罰金**

一定の危険な違反行為をして  
**2回以上**  
 検挙されまたは事故を起こした  
**悪質自転車運転者**

自転車のハンドル等に傘スタンドを  
固定して傘を差して運転したらどうなるの？



傘スタンドを使用しての運転は、違反になる可能性がありますので、**使用を控えるように**しましょう。

問合せ地域活動支援課(地域活動支援) 1階 8番 ☎6915-9846

## 鶴見緑地でのホタル放流 ～美しい自然環境を～

4月16日(木)、鶴見緑地にて、鶴見にほたるを飛ばそう会、大阪鶴見ライオンズクラブ、鶴見幼稚園の皆さんでホタルの幼虫を放流しました。

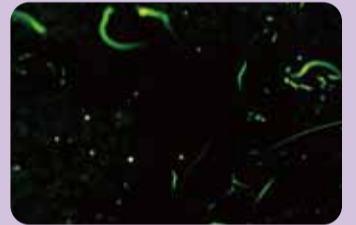
大阪鶴見ライオンズクラブからご寄付いただいたホタルの幼虫に、鶴見幼稚園の園児は少々驚きつつも、成長してきれいに光るホタルが飛び交うことに大きな期待をよせながら放流を行いました。園児たちは、なかなか味わうことができない貴重な体験に大きな喜びを感じているようでした。

5月下旬から6月上旬には、成虫となったホタルが、あちらこちらで飛び交う姿を観賞することができました。鶴見緑地にたまたま来られていた方々も、思わず足を止め、予想もしていなかったホタルの姿に感動され、所々で大きな歓声があがっていました。

これからもホタルが見られる環境を守っていくには、一人ひとりがホタルの成長を温かく見守り、自然環境に配慮した行動をとっていくことが重要です。

来年もまた、鶴見緑地で今年以上のホタルが乱舞し、多くの人々の心を癒してくれることを期待しましょう。

問合せ魅力創造課(魅力創造) 4階 43番 ☎6915-9176



## つるばた会議 vol.7

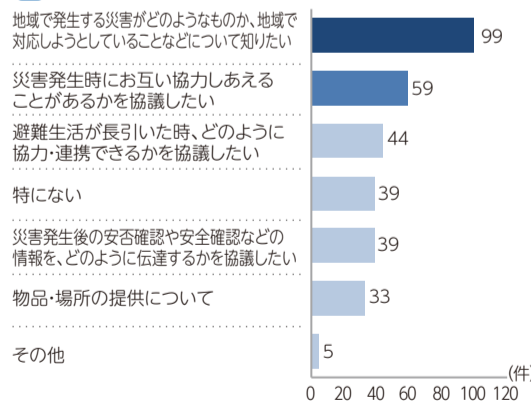
### 事業所との連携を考えました!

7月10日(金)19~21時 区役所4階にて実施

第1部では6月に実施した事業所アンケート結果の報告を行いました。その一部をご紹介します。

●配布数:472 ●回収数:211 ●回収率:44.7% (6月30日現在)

#### 問2 防災について地域と協議・連携したいことは?(有効回答数192)



災害発生時や、長引く避難所生活でお互いに協力しあえることを協議したいという事業所もありました。地域で実施している防災訓練への事業所の参加は少ないですが、協議の場を設けていくことで、安全・安心のまちづくりの次の一歩が開けそうです。

## 地域の小ネタ探しプロジェクト

### まちあるき&撮影会

Vol.2 鶴見緑地～茨田北地域

第2回は、7月5日(日)に実施。約2時間のまちあるきでは、この季節しか見ることのできないレンコン畑で蓮の成長具合を確かめたあと、かつて井路だった場所で昔の風景を想像しながら、地域の方に案内と説明をしていただきました。その後、茨田北福祉会館で撮影写真のスライドショーを楽しみました。視点の異なる写真に、今回も関心が集まりました!



▲かつて商店街だったという霞田橋の東側にて

第2回 JR 徳庵駅出発・茨田～今津方面をまちあるき後スライドショー実施

10月3日(土)13時30分(場所未定)  
 詳細は、広報つるみ9月号およびチラシで!

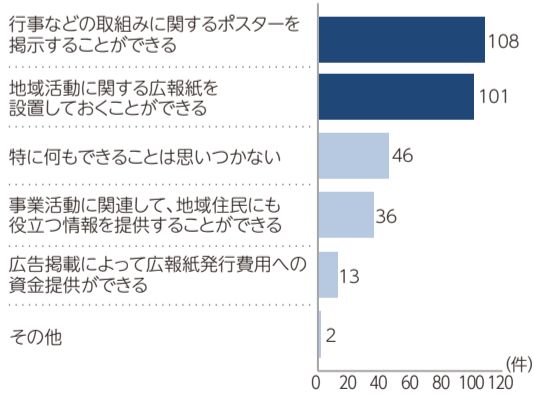
## 地活協の主な事業 8・9月

8月 8日(土)	榎本・水難救助訓練
3日(月)~9日(日)	鶴見・ラジオ体操
9月 6日(日)	茨田北・大運動会
20日(日)	鶴見・体育祭
10月4日(日)	茨田南・祭りだョ!まつたみなみ 全員集合2015

# 千カツキョウだ! 全員集合



#### 問1 地域の情報発信に協力できることは?(有効回答数199)



約60%の事業所が「町会への加入」「行事への協賛」を行っています。また、約半数の企業が地域の広報活動に協力できると回答。「情報が提供できる」「広告掲載ができる」の回答もあり、地域で力を入れている「PR活動」をきっかけに連携づくりが進められそうです。

つるばた会議  
**TSURUBATA**  
 Vol.6  
 ☆こぼれ話④ **「運営」**

3月実施の「つるばた会議6」最後の報告です。  
 ●事務局で地域の全事業を把握するため、H26年度より地活協へのお財布の一本化を図った地域があります。各種団体の繰越金は地活協のお財布に入れ、運転資金とするところから始められました。

●事務局に会計や書類作成を集中させた地域では、部会単位の活動に仕事をどう分散させるかが次の課題です。  
 ●「費用対効果を考えると事業ができなくなる。」「利用料収入が減り、施設の運営が大変。」などの声もありました。